

## ①9 ソフトテニスのラケットを握って55年

私とテニスの出会いは、中学1年生の軟式テニス部の倶楽部活動からである。それから趣味の一つと健康の維持増進にラケットを握り続け55年になります。平成6年に我が子の中学入学をきっかけに同中学のソフトテニスのコーチになり25年になります。この間、区大会やブロック大会で優勝、都大会団体準優勝、全国中学校大会などに出場しています。

### 地域と共生

日本鉄道OB会

また、昨年から、小中学生を対象にしたソフトテニスクラブを立ち上げ、週2回中学校の体育館を借り、親御さん、子供たちには、両親をはじめ多くの方々のご協力を得ながら練習に励んでおります。現在20名の子供たちとの関わりの中で、中学校のコーチとは別の意味

来る精一杯の努力をする気持ちは何よりも大切であること。そして、努力をした者が必ず勝つとは限らないが、勝つた者は必ず努力していることを教えています。最近では、テニスラケットも進化し指導方法も大きく変わってきています。自分自身、物質や能力に不安を感じることが多くなってきましたが、68才はまだ若いと認識しており、学習に終わりはないと感じつつ、一線で活躍している指導者の指導方法を学ぶ機会を活かしながらこれからも健康な限り感性を磨きながら子供たちと関わっていきたくと思っています。



大会の成果を披露するクラブ員と刑部さん（後列中央）

（東日本鉄道OB会 東京地方本部J.R.東日本マネジメントサービス部・刑部政雄 68）

## ②0 子供たちとの関わりを持つ

現職を離れてこれからは何をしようと思ったことは皆さんにもあったでしょう。私が偶然見つけたのは「おもちゃドクター養成講座」の募集でした。これならできるかも知れないと思いい、応募しました。基礎を数日習い、おもちゃドクターとして壊れたおもちゃの修理を始めました。種類も多く、故障原因もまちまちでなかなか直すことができません。仲間からのアドバイスと、少しずつ経験を積み、な

### 地域と共生

日本鉄道OB会

私たちの活動が少しは知られるようになって、少年少女発明クラブの担当者から物作りの指導をして欲しいとの依頼がありまして、物作りに必要な材

夏休みにも施設と共有で工作教室を開いています。因みに私のOJゲージと呼ばれる四五分の一の手作り車両で、今は見ることもできない黒い貨物列車を運転します。いずれも子供たちのためと思って始めたことですが、いつか自分のためとなっており、生きてゆく支えとなっています。

（東日本鉄道OB会 千葉地方本部佐倉支部 堀江悦郎 77）



持ち込まれたおもちゃの状況を聞く堀江さん（左側）